身につく、サガつく、佐賀大学の教育への取り組み

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根差した活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

国立大学法人 佐賀大学

学部等

教育学部	学校教育課程 ■幼小連携教育コース ■小中連携教育コース ■附属幼稚園 ■附属小学校 ■附属中学校 ■附属特別支援学校 ■附属教育実践総合センター
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 ■芸術表現コース ■地域デザインコース
経済学部	■経済学科 ■経営学科 ■経済法学科 ■社会課題研究センター
医学部	■医学科 ■看護学科 ■附属病院 ■附属看護学教育研究支援センター ■附属地域医療科学教育研究センター ■附属先端医学研究推進支援センター ■附属再生医学研究センター
理工学部	理工学科 ■数理サイエンスコース ■データサイエンスコース ■知能情報システム工学コース ■情報ネットワーク工学コース ■生命化学コース ■応用化学コース ■物理学コース ■機械エネルギー工学コース ■メカニカルデザインコース ■電気エネルギー工学コース ■電子デバイス工学コース ■都市基盤工学コース ■建築環境デザインコース
農学部	生物資源科学科 ■生物科学コース ■食資源環境科学コース ■生命機能科学コース ■国際・地域マネジメントコース ■附属アグリ創生教育研究センター
全学教育機構	

大学院
■学校教育学研究科 ■地域デザイン研究科 ■先進健康科学研究科 ■医学系研究科 ■理工学研究科 ■農学研究科 ■鹿児島大学大学院連合農学研究科

附属施設・研究施設
■附属図書館 ■美術館 ■海洋エネルギー研究所 ■シンクロトロン光応用研究センター ■地域学歴史文化研究センター ■肥前セラミック研究センター ■総合分析実験センター ■総合情報基盤センター ■国際交流推進センター ■アドミッションセンター ■キャリアセンター ■保健管理センター ■リージョナル・イノベーションセンター

大学機関別認証評価の全基準を満たしています

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education
NIAD-QE
UNIVERSITY ACCREDITED
March 2022

佐賀大学は、2021年度に大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価を受審し、学生支援、学生の受入、教育課程と学習成果など6つの領域で定められた27の基準すべてを満たし、大学評価基準に適合していると認定されました。これは、佐賀大学憲章において高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くす「教育先導大学」を標榜し、さまざまな取り組みを実施してきた成果だと受け止めております。これからも、教育や研究のクオリティのさらなる向上をはかり、学生に選ばれる大学を目指します。

認証評価と教育研究に関するホームページはコチラ

認証評価について

佐賀大学ホームページ https://www.saga-u.ac.jp/

大学案内

各種情報

佐賀大学の評価について

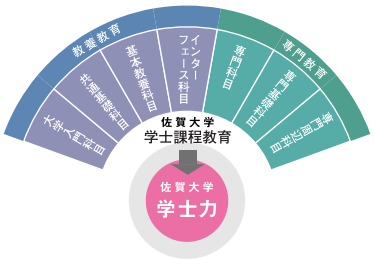
佐賀大学の学士課程教育 ～「佐賀大学学士力」～

佐賀大学の学士課程で身に付けさせるべき能力は、「佐賀大学学士力」として定められています。
卒業時に、「佐賀大学学士力」が身に付くように、学士課程教育のカリキュラムが組まれています。

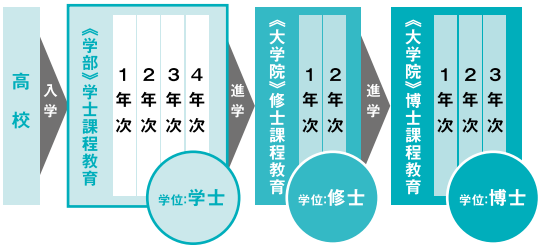
「佐賀大学学士力」

佐賀大学では、基礎的および専門的な知識と技能に基づいて課題を発見し解決する能力を培い、個人として生涯にわたって成長し、社会の持続的発展を支える人材を養成します。そのために、佐賀大学の学士力を次のとおり位置付けます。

■ 佐賀大学学士課程教育 のイメージ



■大学・大学院における教育（一般的なイメージ図）



基礎的な知識と技能

市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能
様々な学問分野（自然、文化、社会）における基本概念や思考方法を理解し、現代社会の諸問題を自らの力で合理的かつ論理的に推論し判断することができる。

市民社会の一員として思考し活動するための技能
①日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解し、自らの意思を表現し、他者の理解を得ることができる。
②英語を用いて知識を修得し、グローバル社会に向けて自らの考えを発信することができる。
③情報を収集し、その適正を判断し、適切に活用・管理することができる。

専門分野に必要とされる基礎的な知識・技能
専門分野について、基本概念や原理を理解して説明することができ、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。

課題発見・解決能力

現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力
現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析することができる。

プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力
専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の知識と技法を応用することができる。

課題発見につながる協調性と指導力
課題解決のために、他者と協調・協働して行動ができ、また、他者に方向性を示すことができる。

個人と社会の持続的発展を支える力

多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力
歴史や文化・伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために、自己と同時に他者の立場に立って物事を考えることができ、また自然環境や社会的弱者に配慮することができる。

地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力
地域や社会の様々な問題に関心を持ち、地域や社会における自らの役割を主体的に選択・決定し、課題に向けて、主体的に学び行動することができる。

高い倫理観と社会的責任感
高い倫理観によって社会生活で守るべき規範を遵守することができ、社会の健全な維持・発展に主体的に寄与する姿勢を身に付けている。

POINT

従来の教育カリキュラムとの違いをわかりやすく言えば、「佐賀大学学士力」を想定したカリキュラムになっているかどうかということです。従来は、教養教育と専門教育の融合という観点からカリキュラム設計がなされていましたが、現在のカリキュラムは、「佐賀大学学士力」を学生に身に付けさせることを目的として、学士課程教育のカリキュラム設計がなされています。つまり、カリキュラム設計の基本コンセプトが大きく異なっているのがポイントです。